

第6節 ICTの活用について

1 保健体育科におけるICTの活用

学習指導要領では、「コンピューターや情報通信ネットワークなどの情報手段を積極的に活用して、各分野の特質に応じた学習活動を行うよう工夫すること」とある。

これは、日常生活の様々な場面でICTを用いることが当たり前となっている子供たちは、情報や情報手段を主体的に選択し活用していくための基礎的な資質としての「情報活用能力」を身に付け、情報社会に対応していく力を備えることがますます重要であることを示している。

文部科学省によると教科指導におけるICTの活用方法は以下の3点が示されている。

①学習指導の準備と評価のための教員によるICTの活用

よりよい授業を実現するために教師がICTを活用して授業の準備を進めたり、学習評価を充実したりすること

②授業での教師によるICTの活用

教師が授業のねらいを示したり、学習課題への興味関心を高めたり、学習内容をわかりやすく説明したりするために、教師による指導方法の1つとしてICTを活用すること

③生徒によるICTの活用

生徒が、情報を収集や選択をしたり、文章や図、表にまとめたり、表現したりする際に、あるいは、繰り返し学習による知識の定着や技能の習熟を図る際に、ICTを活用することによって教科の内容のより深い理解を促すこと

このようにICTを活用することは、主体的・対話的で深い学びの実現のための1つの手法として効果的であり、積極的な活用が求められている。

2 保健体育科におけるICT活用のメリットとデメリット

【メリット】

①実技における能力の向上（自己や他者の動きの気付き）

自分の動作がどのようになっているかイメージできない生徒や、伝えることが難しい生徒にとってICTを活用して動作を見ることができると、技能の向上につながり主体的な取組になる。また、自分だけでなく、仲間の動きについても気付くことができる。

②コミュニケーションの活性化

ペア学習など、お互いの考えを議論する場でICTを活用するとその広がりが増すと考えられる。自分や仲間の姿を視覚的に捉えて、感じたことを伝え合ったり、コミュニケーション能力を高めたりと、対話的な学習にも繋がる。

③インクルーシブ教育の視点

言葉で伝えられない、伝わらない生徒への配慮として、視覚的にアプローチできることは、合理的配慮を要する生徒や、伝えようとしている側にとっても有効な手段である。そこから、対話も広がれば、体育の授業がより楽しく効果的なものになる。

【デメリット】

①機器に依存しすぎてしまい、協働学習が薄れてしまう。

視覚的に自分の動きを見ることで、生徒によってはすぐに自分の改善点に気付き、他者からのアドバイスがなくても解決してしまう場合がある。そのため、仲間と対話し議論することがなくなり、新たな視点からの気付きが得にくくなる。

特に、器械運動や陸上競技などの個人種目の場合、自分の動きを集中して見ればよいと考えて、仲間との協働・協力という学習が薄れてしまい、自己完結で終わってしまう。

②機器の活用時間が長くなり運動量が減る。

グループ学習を展開している場合、動画を見たり、見ながら議論したりすることで、運動量が減り、活動が停滞してしまう。

このようなメリット・デメリットを踏まえた上で、より良い活用方法を考えることが必要である。対話を生むICTの利活用を考え、主体的な学びが展開するよう発達段階に応じた使用をすることが大切である。

3 活用方法

①教師が目標とする姿を提示する。

- ・映像化することで、手本となる動作や生徒が動作のイメージをつかむために活用する。

②生徒が自分の動きを見る。

- ・自分の動きを見て、動作の振り返りを行い、課題解決につなげるために活用する。

③生徒が自分や他者の動きを見て、意見を共有する。

- ・自分や他者の動きを見ながら、意見を共有（フィードバック）し、新たな課題発見のために活用する。

④グループ学習の活性化

- ・グループ学習が効率よくできるように、コミュニケーションを円滑化し、生徒が様々な意見を聞き、学びを深めるために活用する。

⑤生徒同士の評価

- ・学習成果を録画し、動きを見ながら生徒同士で評価し合うために活用する。

4 まとめ

ICTを保健体育科の授業で活用することは教育効果が高い。しかし、教師にとっても生徒にとっても授業を円滑する進めるためだけのものではなく、最終的に、生徒の体育的学力を高めるための活用でなければならない。まずは教師が、メリット・デメリットを把握したうえで、発達段階や活用場面に応じて効果が高いタイミングで活用することが大切である。ICTを効果的に活用するようPDCAサイクルの下、円滑に活用していく必要があるだろう。